

【注意】

- ・原稿用紙の正しい使い方に従って書きなさい。（名前は書かないこと。）
- ・問題用紙、解答用紙、下書き用紙の三枚とも受検番号を算用数字で記入しなさい。

受検番号

次の文章は、ジャングルに暮らすゴリラの研究を続けてきた霊長類学者である山極壽一やまぎわじゅいちさんが、アフリカでの研究生生活の体験をふまえて記した文章の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

アフリカで借りていた私の家にはいつも誰かしら来ていて、私一人でいるということはほとんどありませんでした。何か用事ができるとそばにいる彼らに頼むのですが、何もなければみんなただ座っているだけ。日本的な感覚で見ると、ただ仕事を待っている鬱陶うつとうしいヤツらだともうかもしれません。「仕事なんて何もないよ！ お金が欲しいだけでしょ」と。でも、そうじゃない。彼らは何でもいいから、私のことを手伝いたいと思っている。それがお金になるか否いなかは結果論にすぎないのです。だから、いつも私が頼みごとをしやすい場所にて、時には先回りして動いてくれたりします。

やれ、庭で飼っているヤギが綱から離れた！ だの、鶏がうるさいから静かにさせなきゃ！ だの、誰か客が来たぞ！ と、みんな勝手に対応してくれる。これは、自分の時間はどうぞ全部使ってくださいという彼らの提案なのです。つまり、私に対する彼らの愛。一緒にいるなら、たとえば食事の際に「あなたも食べる？」と言わないといけないかな？ というような気遣いも実は日本人的な感覚であって、彼らにしてみれば、そこにはただ彼らが私にくれた時間があるだけ。

でも、考えてみたら、少し前の日本でも同じような情景があちこちで見られたのではないでしょうか。暇を持て余した人たちがゴロゴロしていて、「ちょっと、君」と言えば、何かしらの仕事を頼むような関係になり得たわけです。

通りにも、家にもぶらぶらしている人がいたし、目的なくみんなが集まることもありました。今と違って家は開放された空間だったので、隣近所の人たちにもすぐに声を掛けられるような状態だった。自分の時間であって、自分の時間ではない、という状況があったわけです。個人に閉じ籠こもることもできれば、相手に提案を投げ掛けることもできる。日本もアフリカとあまり変わらなかったような気がします。

今は、プライベートな時間やプライベートな空間が非常に重視されて、「私は今○○をしに来ているのだから、あなたとは付き合えません」ということが前提になっています。それが、たとえぶらぶらしている時間であってもです。そばにいるときでさえお互いに時間を分け合うことなく、私は私の時間を生きていて、あなたはあなたの時間を生きている。そこには大きな壁がある。

みんながすごく忙しくなっているんですね。逆説的に聞こえるかもしれませんが、みんながそれぞれ自分の時間を生き始めたために忙しくなってしまった。「みんなの時間」を生きていない。あるいは、「他人の時間」を生きようと思っていないのです。

〈山極壽一やまぎわじゅいち『京大式おもしろい勉強法』による〉

（注） * 霊長類・・・哺乳綱ほにゅうの一目。サル類とヒト類を含む。

* 逆説・・・一般に真理と認められるものに反する説。

問 筆者の述べている『『他人の時間』を生き(る)』とはどうすることであるかを明らかにした上で、『『他人の時間』を生き(る)』ことについてのあなたの考えを、二百四十字以上、三百字以内で述べなさい。